

平成30年度

留萌の研究活動

研究部長 遠別町立遠別小学校
校長 安田 善見

1. はじめに

留萌管内小中学校長会では、よりよい学校づくりを実現するため、カリキュラム・マネジメントの推進を通して、校長の役割とリーダーシップの在り方を究明することをねらいとして研究活動を進めているところである。年に一度開催している管内校長会教育研究協議会では、提言発表及び研究協議を通して、具体的な取組の交流を行うとともに、よりよい学校経営の在り方について活発な議論を行っている。また、道小・道中提言に向けては、プロジェクト委員会を組織して、管内校長の実践をもとに提言資料を作成している。管内校長会の組織連携を基本とし、よりよい学校経営の在り方や今後の教育の方向性などについて意欲的に研鑽しているところである。



◇8月7日 留萌管内校長会教育研究協議会◇

2. 活動計画

(1) 研究主題・副主題

- 研究主題：「北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて
挑戦する子どもを育む学校経営の推進」
- 研究副主題：学校力を高めるために戦略的に思考するカリキュラム・マネジメントの推進～課題をとらえ、解決に導き、よりよい学校づくりを進める校長の在り方～

(2) 研究推進の重点

- ① 研究主題に基づく3か年継続研究の最終年次の研究を推進し、第66回留萌管内小中学校長会教育研究協議会において共通理解を深めるとともに、今後の研究の見通しを確かなものとする。
- ② 平成30年度全連小提言発表に向け、提言プロジェクト委員会の活動を充実し、研究推進に努める。
- ③ 研究集録『和心一統』第49号を発刊し、研究の成果と校長会の足跡を記録に残す。
- ④ 道小・道中研究部、各市町村研究部及び関係機関との連携の強化に努める。
- ⑤ 留萌管内研究団体連絡協議会の会長・事務局長として、各種研究会の連絡調整に努める。

3. 研究活動

(1) 3か年継続研究計画の推進

3か年継続研究最終年次となる今年度は、昨年度までの研究に基づく各会員の実践と成果を集約するとともに、課題解決への具体的な方策についての共有を図っていく。そのために、管内全ての小中学校に自校の「カリキュラム・マネジメント全体構造図」に基づいた学校改善・学校創造の取組を進めてもらい、実践の蓄積化を図っていく。

(2) 第66回留萌管内小中学校長会教育研究協議会の開催

- ① 期日 平成30年 8月 7日(火)
- ② 会場 小平町文化交流センター
- ③ 内容 全連小提言発表, 地区提言発表, グループ協議

■ 地区提言の概要

「教職員の意識改革と校内体制の充実について」

提言者 苫前町立苫前中学校長 森 正彦

学校改善の中心テーマを「授業改善」と位置付け、教職員の意識改革を図るための経営方針の明確な提示や日常の授業参観、今後の実践のヒントの提示など、校長の戦略的な思考に基づいた教職員に対する様々なアプローチの仕方について、また、ミドルリーダーを中心にチームで取り組む授業改善や生徒指導の充実を図るための校長としてのリーダーシップの発揮について事例が示された。

■ グループ協議

午後から五つのグループに分かれ、各自の持参資料を基に、各校で取り組んでいるカリキュラム・マネジメントにおいて、校長が具体的にどのように取り組み、どのような成果・課題があるのかについて交流し、①教職員の意識改革を図るために、どのようにマネジメントしているか ②組織的に教育活動を推進するために、校内体制をどのようにマネジメントしているか の二つの視点に沿って協議した。

(3) 第70回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会並びに第61回北海道小学校長会教育研究函館大会の提言発表

■ 第7分科会「研究・研修」

■ 研究発表 「学校の教育力を向上させる研究・研修において発揮する校長のリーダーシップ」 提言者 天塩町立啓徳小学校長 山口 清敏

(4) プロジェクト委員会の開催

平成30年度全連小函館大会第7分科会の提言発表に向けてプロジェクト委員会を組織し、準備を進めてきた。

(5) 新任校長研修会への参加

管内校長会で実施した「新任校長研修会」では、研究部から校長会の活動の中核をなす研修・研究活動の重要性や組織体制について説明し、校長会の連携や校長としてどのように学校経営に当たるかを新任校長とともに考えた。

(6) 各種研究会への参加, 還流

研究会参加報告は研究集録「和心一統」に掲載して還流を図っている。

4. おわりに

3か年研究の最終年次となる今年度の研究協議会では、自校の実践を持ち寄り協議したことで、経営ビジョンや方策・方針の明確化、教職員の参画意識の高揚を図る具体的な手だて、ミドルリーダーが学校改善に向けて主体的に活躍するようしむける校長の働きかけ、チームとして学校が動けるようにするための校内体制の工夫など、校長としての具体的な取組について会員相互で共有することができた。また、校長のリーダーシップの発揮においては、カリキュラム・マネジメントの考えに基づいて戦略的に思考するという、将来に展望をもつこと、さらには地域・保護者への説明責任を果たすということの重要性についても確認することができた。

次年度から新たな計画のもとで研究をスタートするが、これまで同様校長の実践をもとにした提言発表と研究協議を行うことでさらに研究を深めていきたい。留萌の子どもたちのため、留萌の教育の一層の充実に向けて実りある研究を推進していきたいと考える。